

Zenit ( 2 0 1 1 年 4 月 2 2 日、金曜日 )

聖金曜日の 1 4 : 1 0 から放送された RAI ( イタリア国営テレビ ) の番組で、様々な国の人から出された質問に対する教皇ベネディクト 1 6 世の答えを写します。

1 ) 教皇様、このような場をお与えになって、今日がイエスが不正にも十字架の上でお亡くなりになることによって、これ以上ない仕方でお示しになった日であることを思い出させてくださること、また私たちを喜びでみたまてくださることを感謝いたします。まさにこの無実の人の苦しみが第一の質問です。それは 7 歳の日本の少女からのもので、彼女はこう言っています。「私はエレナと言います。日本人で 7 歳です。私は今まで安全だと思っていた家が揺れたり、また私と同じ年頃の子供たちがたくさんなくなったりして、とても怖い思いをしています。公園に遊びに行くこともできません。一つお尋ねしたいことがあります。どうして、私はこんなに怖い目をしなくてはならないのでしょうか。どうして子供たちがこんなに悲しい目に遭わないといけないのでしょうか。教皇様は神様とお話になります。私にこのことを説明してください」

愛するエレナ、心より挨拶を送ります。私も、どうしてこんなことが起こるのだろうか、どうして他の人たちは安楽に過ごしているのに、あなたたちはこんなに苦しまないといけないのか、と自問しています。それについては答えを見いだせません。しかし、次のことはわかります。つまり、イエス様はあなたたち善良な人たちと一緒に苦しまれたこと、イエス様において神様はご自分をお現しになり、あなたたちのそばにおられることを。このことはとても大切なことだと思います。私たちには答えがわからないかも知れませんが、また悲しみは消え去ることがないかも知れませんが、それでも神様があなたたちのそばにいてくださるので、そのことがあなたたちに慰めを与えることを確信してください。いつか、この災害のわけがわかる日がくるでしょう。今の段階では、たとえ、神様は私のことをご存じないというふうに思えたとしても、「神様は私を愛しておられる」ことを知ることが大切だと思います。確かに私を愛し、私のそばにおられます。あなたたちは、世界中で、宇宙の中で、大勢の人があなたたちのそばにいて、あなたたちのことを考え、あなたたちのために出来ることを何でもして助けようとしていることに思いをめぐらせねばなりません。また、いつかきっと、この苦しみは内容のない空虚なものではないこと、無意味ではないこと、そうではなくて、その苦しみの裏に何かよい計画、愛の計画があることがわかると思ってください。これは偶然の産物ではありません。確信をもってください。私たちはあなたのそばにいます。今苦しんでいるすべての日本の子供たちのそばにいます。私たちは祈りと行いによってなんとかあなたたちの助けになりたいと思っています。だから、神様があなたたちをお助けになることを確信していないといけません。このようにして、一日も早くあなたたちに光が差し込むように、私たちは一緒に祈っています。

2) 三番目の質問はイラクからで、迫害を受けているバグダッドの若者たちの中からです。こう尋ねています。「教皇様、イラクからご挨拶申し上げます。私たちバグダッドのキリスト信者はイエス様と同じく迫害を受けています。教皇様、私たちのキリスト教共同体を助けたいのですが、信者の人々に他の国に移住することが唯一の解決策ではないことをわからせるのにはどうすればよいでしょうか」

まず最初に、私は私たちの兄弟であるイラクのすべてのキリスト信者に心から挨拶を送りたいと思います。また、イラクの信者たちのために毎日祈っていることを申し上げずにはおられません。彼らは他の場所の兄弟と同じく、苦しんでいる兄弟です。それがために彼らは特別に私の心の近くにいると感じています。彼らの困難な状況を考えると他国に脱出したいというのは、まったく理解できることですが、私たちの出来る限り、その誘惑に抵抗するように助けるべきです。敢えて申しますが、イラクの愛する兄弟たちよ、私たちがあなたがたのそばにすることが必要です。また、あなた方がこちらに移住して来る場合は、本当の兄弟として暖かく迎え入れることが大切です。言うまでもないことですが、イラクのために何かができる団体や個人は皆、援助の手をさしのべるべきです。聖座は絶えずイラクの様々な共同体と接触しています。カトリックの人々だけでなく、他のキリスト教の共同体とも、またシーア派であろうがスンニ派であろうが関係なくイスラム教徒の共同体とも。私たちは、和解と相互理解を促進し、また、分裂に苦しむ社会を再構成するという困難な仕事においてイラク政府に協力したいと思っています。というのは、人々がばらばらになっているという、これこそが問題だからです。もう「私たちは多様であるが、共通の歴史を持つ一つの民族で、その多様な社会の中で各共同体はそれぞれの場所をもっている」という意識を失っていることです。イラクの人々はこの意識を再構築する必要があります。私たちがしたいことは、異なるグループの人々との間に対話を通じてこの再構築の企てを進めること、また愛するイラクの兄弟たちよ、あなたたちに、希望と忍耐と神への信頼を持ち、この困難なプロセスを進めていくように励ますことです。私たちの祈りに信頼してください。

3) 次の質問は、数年前から内戦状態が続いているコートダジュールのイスラーム教徒の女性からです。この方はピントゥーという名前で、アラビア語で「神があなたの言葉の一つ一つにいてくださいますように。神さまがあなたとともに」という意味の挨拶を送っています。この言葉は対話を始める際に使うものです。次にフランス語でこう続けます。「愛する教皇様、ここコートダジュールでは、キリスト教徒とイスラーム教徒はいつも仲良く暮らしてきました。一つの家族に二つの宗教の人がいることも珍しくありません。また当地では複数の民族が共存していますが、今まで問題があったことはありません。でも今すべてが変わってしまいました。政治が起こしたこの危機の中で、対立を煽る人たちがいます。どれほど多くの無実の人が命を失ったことでしょうか。なんと多くの避難民、なんと多くの母や子供が心と体に傷を負ったことでしょうか。預言者たちは平和を訴えました。イエスは平和の人です。そのイエス

の使者である教皇様、私たちの国にどのような助言をいただけますか」

私もあなたのご挨拶に対して、「主はまたあなたとともにおられ、絶えずあなたをお助けになりますように」とお返ししたいと思います。私もコートダジュールから悲惨な状況を伝える手紙を受け取っています。それらはコートダジュールが悲しみに沈み、深い苦しみを味わっていることを伝え、私はこちらがほとんど何もできない事実を思い悲しくなります。ただ、いつも私たちにもできることがあります。あなたたちと一緒に祈ること、そして出来る範囲で慈善の仕事をし、なかでも、そちらの当局や私的な団体とできるだけ協力したいと思っています。私は、バチカンの正義と平和委員会の委員長であるトクソン枢機卿に、コートダジュールに飛び、国の再建ができるように異なるグループと人々の仲介を試みるように頼みました。とくに私たちは、あなたたちも預言者として信じているイエスの呼びかけを人々の耳に届けさせたいと思っています。イエスはいつも平和の人でした。神がこの地上に来られたとき、敵の勢力をたたきつぶすことのできる偉大な権力をもった者として、つまり平和を確立するために暴力を行使する人物として現れることも可能だったと考えることも出来ます。しかし、そうではありませんでした。彼は弱々しく、ただ愛の力だけをもって、いかなる種類の暴力も使わず、十字架に赴いたのです。このことは神様の本当の顔を見せてくれます。また、暴力は決して神からのものではないことを、暴力からは決して善いものが生まれぬことを、反対に暴力は破壊の手段であり、困難から抜け出るための手段ではないことを教えてくれます。それはあらゆる種類の暴力に強く反対する声です。私はすべてのグループに暴力を捨て、平和への道を探るよう大声で呼びかけたいです。あなたたちの祖国の再建のために、たとえ自分たちは正しい、相手が間違っていると思っても、暴力的な手段を使うことは叶いません。再建のための唯一の道は、暴力を捨て、対話を再開し、ともに平和と互いの助け合いを求め、互いに心を開くことです。愛するご婦人、平和的な手段で平和を求め、暴力を捨てること、これがイエスの真のメッセージです。私たちはあなたたちのために祈っています。コートダジュールのすべての人々がこのイエスの声に耳を傾け、そうして平和と交わりを取り戻しますようにと。

4) 次の質問も復活についてイタリアからです。「教皇様、日曜日の朝、婦人たちが墓についたとき、イエス様だとわからず、他の人と間違えました。使徒たちにも同じことが起こっています。イエス様は手足の傷を見せたり、パンを割いたりしないといけませんでした。復活したイエス様の体は、肉と骨からできた本当の体でしたが、栄光の体でもありました。復活後の体は以前の体と同じ性質のものではないということは、どういう意味ですか。「栄光の体」とはどういう意味ですか。私たちの復活においても同じことが起こるのですか。

言うまでもなく、栄光の体がどのようなものであるかを知ることはできません。と言うのは、それは私たちの経験を越えることだからです。この現実を出来る範囲で理解するため、イエスが見せたいいくつかのしるしを解釈することしかできません。最初のしるしは、からの墓です。つまり、イエスは自分の体が腐敗することを許さず、物質も永遠に存続すること、本当に復活したこと、敗北したのではないこと、を教えました。しかし、イエスは新しい仕方で物質(肉体)をおとりになったのです。これが第二点です。つまり、イエスはもう二度と死ぬことはない、言い換えると、その肉体は生物学や物理学の法則を越えているということです。それゆえに、私たちに新しい存在の仕方がある。ただし、それは私たちにはどんなものかはわかりません。とはいえ、イエスに起こったことを見てある程度推測することができます。このことは、私たちみんなにとって、新しい世界、新しい生活があり、私たちはそれに向かって進んでいるという驚くべき約束です。この新しい肉体をもったイエスに対し、他の人々は体に触れることもでき、イエスは友人たちにその手をお示しになり、彼らと一緒に食事をするもおできになりました。しかし、それは私たちが今生きている条件とは異なる、生物学の法則を超えたものです。私たちが知っていることは、一方でイエスは幽霊ではなく、本当に生きている正真正銘の人間であったこと、他方もう死の支配下にはおられないということです。これは私たちにとって偉大な約束となります。

すくなくともできる範囲で、ご聖体の例を頼りに、このことを理解することは重要です。すなわち、ご聖体において主は私たちにその栄光の御体をお与えになります。私たちがいただく主の御体は、普通の死せる肉体ではないのです。それゆえ、(中略)、主の現存によって私たちは主に浸透されて、主と一体になることができます。これは重要なポイントです。と言うのは、主が私の中にお入りになり、私が自分の殻を破って外に出ることで、私は新しい次元の生命に引き上げられ、このようにして、私たちは栄光の生命と触れることができるからです。約束のこの面、主がご自分を私たちにお与えになり、私が自分の外にでることで私を引き上げてくださるということは、最も重要な問題だと思えます。それは、私たちの理解できないことを解明しようとするのではなく、ご聖体においてつねに新たに始まるこの新しい世界に向かって行こうとすることなのです。